



特集

せいたん ねんきねん すな だとも してん
生誕100年記念 砂田友治展
アート アンド エアー そら ひこう き

Art and Air ~空と飛行機をめぐる、げいじゅつ かがく ものがたり
芸術と科学の物語





わたしは、《作品（青に依る）》が好きでした。題名と絵のよく意味が分らないところが好きでした。90%くらいは、青でしたが、ところどころに、赤、白、グレー、みどりなどの色がある。それも絵のはじだけが青以外を使っています。あれは、陸を表しているのかと思います。グレーの陸のような所から船が出ています。漁に行くのか、小さい船でした。大漁になるといいなあと思いました。そして、その大きな海を表した青い中に、赤や白があります。もしかして、魚？と思いました。そもそも、作者は何故こんな絵をかいたのか、不思議です。でも、よく分らないのが、芸術だと思います。本当に陸？魚？見る者をまどわせる絵でなんとなく好きでした。

(スケッチ・記事：深澤乃愛)

すなだともじてん なか き い
砂田友治展の中で気に入った

さくひん さくひん あお よ
作品は、《作品（青に依る）》です。

さくひん え あおいろ
この作品は、絵のほとんどが青色です。

み かん
でも、見ているとひきつけられる感じがしました。使われている青色はクレヨンみたいな濃い色ではないけど、うすい色でもない、不思議な色でした。

(熊谷陽奈)



わたし き い ふたり
私が気に入ったのは、《二人

てんし はしこ
の天使と梯子》です。色があざや

かでとてもはく力があります。道具は油彩とカンヴァスです。もう一つ気に入ったのは、カップラーメンと宇宙人のいる作品です。はく力のある作品ばかりでしたのしかったです。

(山田和佳)



《生きるものB》

ぱっとみたかんじよく意味は
わからない。でも、じっくり見て
みると表面が大げさにぼこっとび
でているところと、そんなに大げさでは
なくぼこっとびでているところと、
平たいところがある。

これがぐちゃぐちゃにまざったのが
全体的にひろがっている。これは、

ひとそれぞれの生き方をあらわしているのではない
だろうか。

(スケッチ・記事：山田晴日)

《勇払原野とウトナイ湖》を

見て思ったことは、これを見たとき

自然に囲まれているように思った。

また、《太陽とシール》を見て思ったことは、
何か夢に向かってるように思ったし、この絵

を見たら元気をもらうようなかんじもした。

絵はときに元気をわけ、その絵をかいた人は

自分の思ったことやかんがえたことを

かいているんだなとこの取材を

して思った。

(渡辺治暖)

砂田友治展



福田 絵梨子 学芸員

北海道の美術界で活躍した苦小牧生まれの画家・砂田友治は、2016年に、生誕100年を迎えました。約60年にもなる画家生活で、絵の雰囲気はどんどん変化してゆき、まるでそれぞれが別人が描いたかのようにもみえます。しかし、それらを集めてみると、どの作品にも北海道の大地が浮かび上がってくるような気がします。記者のみんなは、作品の色にも注目してくれましたね。色や形の組み合わせについてたくさん研究を重ねてきたからこそその複雑な色合いが作品に表れているのだと思います。



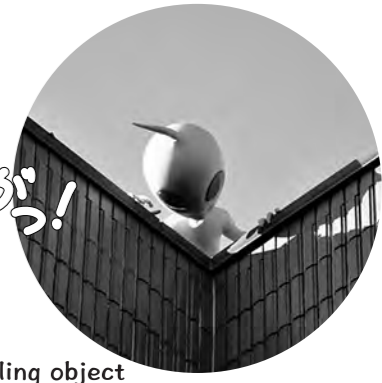
作品：大森 記詩
上：《Air plane》2016
下：《Carrir》2016

すごく小さい飛行機
でした。
(山田圭吾)



作品：伊藤 隆介
《Free Fall (自由落下)》
2010

宇宙人が!



作品：岡本 光博
《UFO-unidentified falling object
(未確認墜落物体) その後》
2016 (部分)

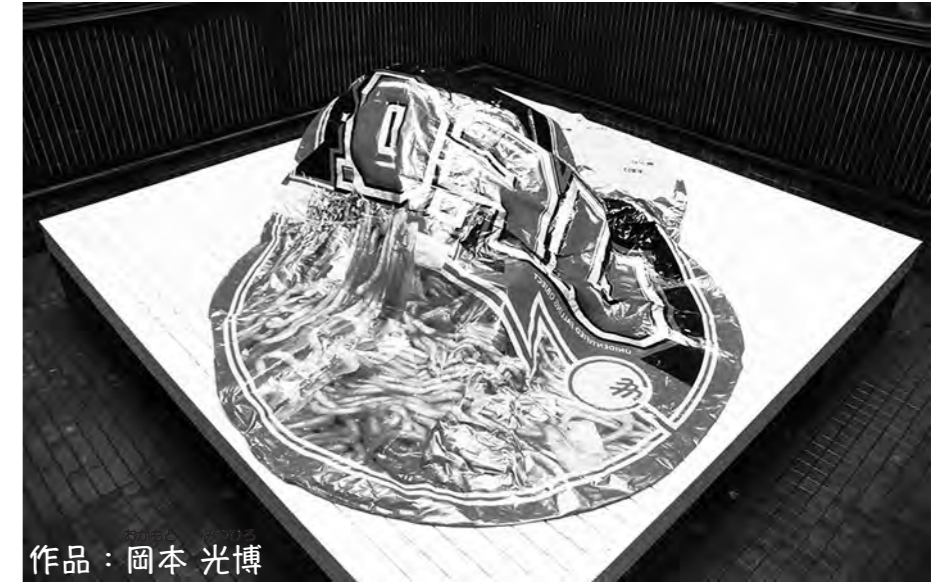
《自由落下》
映像にうつっているロケットが永遠に落ちて
いて、とても不思議な映像だなと思っ
た。題名は「自由落下」と書いてあって、落下
という意味は分かるけど、自由という意味はよく
分からないなと思った。
(山田晴日)

Art and Air 空と飛行機をめぐる、芸術と科学の物語

今回の展示は、第二展示室の切ら
れた飛行機がリアルで印象的でした。
でも飛行機の先の部分と後ろなどの部分がなくて、
不思議でした。どうしてないのかはよくわからない
けど、第三展示室にある絵の背景に似たような飛行
機がありました。その絵では、飛行機がつい落して
いるように見えたので、この飛行機はつい落して
分解されたのかなあと思いました。
(熊谷陽菜)

私の気に入った作品は、
大森記詩さんの作品で、とても小さい
飛行機がならべてあって、どこに行く
のか考えるのがたのしかった。
(山田和佳)

ロケットがくるくるおちている
ひこうきがこわれてる
やきそばをうちゅうじんがみてる
やきそばがふくらんでる
どうろがくねくねしています
(山田梨世)



作品：岡本 光博
《UFO-unidentified falling object (未確認墜落物体) その後》
2016 (部分)

この展示会では、「空」と「飛行機」をモチーフとする絵画や立体などの美術
作品とともに、写真をはじめ飛行機模型やプロペラなどの資料を通して、20
世紀に登場した飛行機の歴史や、空を飛ぶことが人間にもたらした、上から
見下ろす「俯瞰」という新たな視点、そして、人々が「飛行機」というイメージ
とどのように向き合い、それが受け入れられていったのかといった点に注
目しました。「空を飛ぶこと」が当たり前になった「今」というこの時代にこ
そ人々が憧れを抱いてきた「空」と「飛行機」について改めて考えてもら
うと同時に、それらが織りなす豊かな物語を体感してもらえたらと思います。



細矢 久人 学芸員

7月10日
今年も彫刻家の首藤晃さんがきてくれました！
難しく見える現代美術を一緒に見ること
で楽しく見られるきっかけになったようです。



※伊藤隆介《Free Fall (自由落下)》の映像の中で落下している物体は
原子爆弾 (リトルボーイ) をモチーフにしていますが、本文では記者
の感想をそのまま伝えるために「ロケット」と表記しています。



たにうちろくろう めで おと とまこまいし ががく
谷内六郎《芽の出る音》：苫小牧市科学センター

10月29日の活動では、野外彫刻を見つけるために散策に出かけました。

苫小牧市美術博物館の前には出光カルチャーパークが広がり、図書館や体育館、少し歩くと科学センターや市民会館などもあり、いたるところで色々な彫刻を見つけることができました。

中でも、日本じゅうに彫刻作品がある本郷新の《勇払八王子千人同心》の像や、谷内六郎の大きなタイル壁画《芽の出る音》を詳しく取材しました。

作品を見つける中で、大きな石が並べられているものや、歩道の目印になっているものも作品なのかな？と、記者の視点が変化していく様子が見られ、取材にも力が入っていきました。

記事やイラストは次回21号で詳しくお伝えします。次号もお楽しみに！！！！



ほんだ めいじ そう とまこまいし そうこうたいいくかん
本田明二《おおぞらの像》：苫小牧市総合体育館

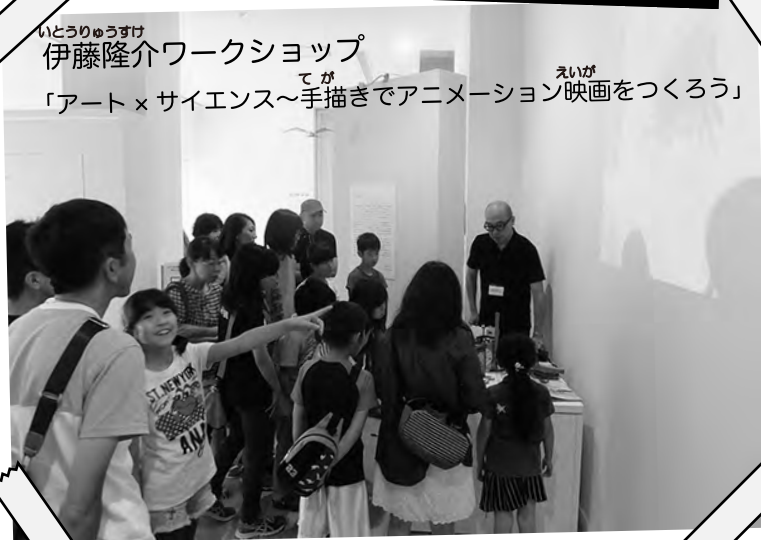


野外彫刻
を探しに
いったよ

其の1



がつ にち 7月23日から31日まで、「美術博物館祭2016」が行われました。会期中は、こどもサイエンスカフェや伊藤隆介さんによるワークショップ、千歳科学技術大学の青木広宙先生と藤沢レオさんと音響作家の中坪淳彦さんのスペシャルパフォーマンス、プロジェクトマッピングで樽前山の噴火の歴史を学ぶコーナーなど盛りだくさんの内容でした。

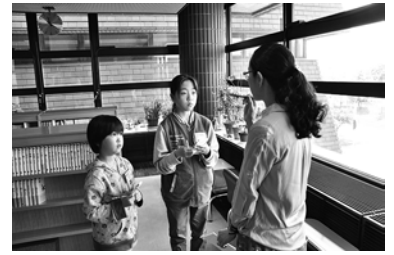


7月30日、31日の二日間、第7回目となる「苦小牧アートフェスティバル2016」が出光カルチャーパークエリアで行われました。会場ではたくさんの市民がライブやパフォーマンスを楽しみました。オープニングでは、蛍光に光るフラワーアートやワークショップで作ったまっ白なヒグマに映像作品を投影して、サンガーデンが幻想的な空間になりました。

(1) 5月21日(土)

オリエンテーション

- ・お互い取材しあう
- ・取材用名刺づくり
- ・写真のコツを学ぶ



(2) 6月25日(土)

企画展「生誕100年記念 砂田友治展」

- ・美術館での鑑賞・取材のマナーを学ぶ
- ・展覧会の鑑賞と取材
- ・19号の編集作業

(3) 7月10日(日)

特別展「Art and Air ~ 空と飛行機をめぐる、芸術と科学の物語」

- ・首藤晃さん(音更町在住、彫刻家)による作品鑑賞のコツ
- ・展覧会の鑑賞と取材と執筆

(4) 9月24日(土)

企画展「イカラカラーアイヌ刺繍の世界」

- ・展覧会の鑑賞と取材と執筆

(5) 10月29日(土)

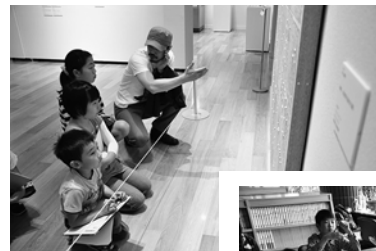
野外彫刻探訪

- ・美術館～出光カルチャーパーク～総合体育館～科学センターを散策
- ・野外彫刻鑑賞
- ・本郷新「勇払千人同心」、谷内六郎「芽が出る音」取材

(6) 11月19日(土)

コレクション展・中庭展示

- ・展覧会の鑑賞と取材
- ・コレクションカードの準備
- ・上ノ大作さん(陶芸家・彫刻家)への取材



今後の活動予定▷▷▷

(7) 12月17日(土)

コレクションカードをつくる

(8) 2月11日(土)

コレクションカードをつくる

- ・終了式



活動は、いつでも見学可能です♪ ぜひ遊びにきてねーっ!

編集後記:「びとこま」の活動が始まって、早くも4年がたちました。子どもたちの成長は早く、毎年小さな仲間が加わっては、すぐに大きくなっていきます。活動を通して、新しい発見に出会い、新しい技術を身につけ、自分の感動を紙面で紹介してくれます。紙面編集も海外赴任の小河けいに代わり私が担当しますが、子ども記者と一緒に新しい感動と美術博物館の魅力を届けていきたいと思ひます。



編集長代理
藤沢 レオ (樽前 arty プラス)

びとこま 第20号 (2016年12月発行)

[執筆] 子ども広報部「びとこま」(荒井聖・山本舞羽・熊谷陽奈・小山鈴乃・山田和佳・山田圭悟・黒滝直人・岡藍良・渡辺治暖・坂東亜子・坂東菜那・中村風香・中村創介・山田晴日・山田梨世・深澤乃愛・苫小牧市美術博物館・NPO 法人樽前 arty プラス)

[イラスト] 子ども広報部「びとこま」/小河けい (NPO 法人樽前 arty プラス)

[企画・編集] 苫小牧市美術博物館/NPO 法人樽前 arty プラス

[発行] 苫小牧市美術博物館